

「新入生セミナーB(英語教育専攻, 2016年度前期)」: 授業評価アンケート結果とその考察

英語教育講座 秋山正宏

「新入生セミナーB」は、科目分類上は共通教育科目であるが、各専攻およびコースにおける学びへの導入として開講される必修科目である。ここでは、2016年度の英語教育専攻の「新入生セミナーB」について取り上げる。なお授業の目標、到達目標、授業概要の詳細についてはウェブ上のシラバスを参照されたい。

今年度のこの授業は、ガイダンス時に秋山から授業概要の説明を行うとともに、学生・教員の顔合わせを行った後、1~3回を立松教員(英語教育学)、4~6回を Bogdan 教員(異文化間コミュニケーション)、7~9回を池野教員(英語教育学)、10~12回を竹永教員(英米文学)、13~15回を秋山(英語学)が担当した。最終回授業時(15回)に、授業を振り返るワークシートの記入、提出をしてもらうとともに、授業評価アンケートを行った。なお成績評価は平常点に基づいて行った。今回は、最終回授業時に行った授業評価アンケートの結果を公表し、簡単な考察を加えたい。授業評価アンケートの結果は以下の通りである(回答者数4名)。

A あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。(1. 全くそうは思わない(0); 2. どちらかというとは思わない(0); 3. どちらとも言えない(0); 4. どちらかというと思う(2); 5. 強くそう思う(2); 平均値: 4.50)

B 5人の教員が関わる授業である為、一概に言うのは難しいと思いますが、一般的に言ってこの授業の難易度についてどう思いますか。(1. 非常に難しかった(0); 2. やや難しかった(0); 3. ちょうどよい(4); 4. 比較的やさしかった(0); 5. 非常にやさしかった(0); 平均値: 3.00)

C 5人の教員が関わる授業である為、一概に言うのは難しいと思いますが、一般的に言ってこの授業で学んだ内容はあなたにとっておもしろい(知的好奇心をそそる、といった意味)ものでしたか。(1. 全くおもしろくなかった(0); 2. あまりおもしろくなかった(0); 3. どちらともいえない(0); 4. 比較のおもしろかった(1); 5. 非常におもしろかった(3); 平均値: 4.75)

D この授業を通して英語教育専攻での学びについてのイメージを持つことが出来ましたか。(1. 全くそうは思わない(0);

2. どちらかというとは思わない(0); 3. どちらとも言えない(0); 4. どちらかというと思う(4); 5. 強くそう思う(0); 平均値: 4.00)

E この授業を通して英語教育専攻で今後学んでいく意欲を高めることが出来ましたか。(1. 全くそうは思わない(0); 2. どちらかというとは思わない(0); 3. どちらとも言えない(0); 4. どちらかというと思う(1); 5. 強くそう思う(3); 平均値: 4.75)

F 最後にこの授業全体を振り返って、何か一言

質問 A については、4名全員が肯定的な回答(4あるいは5)をしているが、受講学生がより高い意欲を持って授業にのぞむことが出来るよう、講座全体として努力を継続せねばならない。

質問 B については、4名全員が「ちょうどよい」を選択しているが、肯定的な評価がなされているものと考えられるが、今後も適切な難易度を保つ努力を講座全体として継続したい。

質問 C については、4名全員が肯定的な評価をしていて、否定的な評価をした学生はいなかった。ほぼ全ての学生の知的好奇心を何らかの形で刺激することが出来る授業にはなっていたようである。英語教育専攻で学ぶ学問分野は大学に入って初めて学ぶものがほとんどであるため、学生達の知的好奇心を刺激していくことが極めて重要と考えられる。今後もこの方向での努力を継続せねばならない。

質問 D については、4名全員が肯定的な回答をしたものの、「5」を選択した学生はいなかった。専門的な学問分野についてのイメージは実際に本格的に取り組んでみないと分からない部分もあるのであろう。

質問 E については、4名全員が肯定的な回答をした。ほぼ全ての学生が英語教育専攻における学びに対する意欲を高めることが出来たと見てよいだろう。

アンケート結果から判断する限り、今年度のこの授業に対する評価はまずまずと見てよい。

なお輪講形式の授業であることもあり、時間外学習については統一的なルールを設けなかった。